

ミクロネシア情勢（2016年4月分）

1 内政

クリスチャン大統領、内務長官及び政務担当国務次官と会談

4月下旬の訪米中、クリスチャン大統領は、Sally Jewell 内務長官及び Thomas A. Shannon Jr 政務担当国務次官と相次いで会談した。クリスチャン大統領にはロバート外相、ファルカム大統領首席補佐官、エリモ・チューク州知事らが同席した。

クリスチャン大統領が気候変動枠組み条約締約国会議のパリ合意文書に署名

22日、気候変動枠組み条約締約国会議パリ合意文書にかかるニューヨークでの国際会議に臨んだクリスチャン大統領は、パリ合意文書への合同署名式にて署名し、今世紀の気温上昇を2度以内に抑えることを基本目標とし、同期間の気温上昇を更に1.5度以内とする可能到達目標に同意の意思を示した。

同文書に署名した国は174カ国、温室効果ガス全排出量の少なくとも55%を占める55カ国の批准によって同合意は発効することとなっている。

クリスチャン大統領は、「全ての署名国が実効的な努力を継続していくことが重要である、ミクロネシア連邦は、モントリオール議定書下のハイドロフルオロカーボン（HFCs）使用の全面廃止を率先して目指していく。」との声明を読み上げた。

クリスチャン大統領は今次の訪米において、9月11日事件発生地である世界貿易センター後の記念館を訪問し献花を行った。

2 外交

ウィルバーカー運輸・通信・インフラ大臣が訪中

3月27日～31日、ミクロネシア連邦と中国の両国政府間で調整されてきたY12E航空機のミクロネシア連邦への供与計画について話し合うため、ウィルバーカー運輸・通信・インフラ大臣が中国を訪問、同航空機製造会社を訪問した。

ウィルバーカー大臣は、「運輸インフラ基盤強化に向けたクリスチャン大統領の政策方針に則した計画であり、引渡し時期に自身が所管大臣として貢献できて嬉しい」と述べた。同航空機の引渡しは本年夏に予定されている。

アピス在中国大使が寧夏回族自治区の観光イベントに参加

3月2日、Li 中国大使出身地である寧夏回族自治区の観光振興イベントにアピス大使が参加した。同イベント開会式には王外交部長も駆けつけ同自治区へ

の投資と観光促進を呼びかけた。

同自治区には金属加工，化学及びハイテク産業が起こされており，また，観光価値の高い自然景観にも恵まれているとして，内外の企業関係者にアピールされた。

なお，ヤップ州と寧夏回族自治区は 2011 年に姉妹都市関係を提携させている。

ローゼン大使が任期終了前にチューク州を再訪問

3 月 29 日～4 月 1 日，ローゼン大使は 4 年近い任期を終了する前の時期にチューク州を再訪問し，今年の Maysak 台風からの復興状況を視察した。

米国は，Maysak 台風被害支援として，住宅建物復旧，農業復興，復興建材・救援物資運搬，飲料水・保健衛生物品の支給など既に 4, 000 万米ドル以上相当の支援を供与，米国国際開発庁（USAID）及び国際移住機関（IOM）と相互に連携しチューク州住民の復興努力を支えてきた。

チューク州とヤップ州双方で 29, 700 名の住民に影響を与えたとされる Maysak 台風の後，USAID 及び IOM は，Voucher Program（復興資材や必需品の購入を支える支援金提供プログラム）により，チューク州においては 1, 183 世帯が総額 132 万ドル超る同プログラム支援の申請があり，4 月 13 日時点で 286, 400 米ドルが供与済みとなっている。

カナダ大使がクリスチャン大統領に信任状を捧呈

5 日，Paul Maddison 在豪州カナダ大使は兼轄国であるミクロネシア連邦の大統領信任状をクリスチャン大統領に捧呈した。Maddison 大使は，航空サービス，気候変動，漁業及び国費留学制度等について意見交換したほか，2020 年の安保理非常任理事国へのカナダの立候補についてミクロネシア連邦の支持を要請した。

ロシア大使がクリスチャン大統領に信任状を捧呈

7 日，Igor Khovaev ロシア大使は信任状をクリスチャン大統領に捧呈し，航空サービス，気候変動，国費留学生制度及び観光について意見交換したほか，両国間で交渉中の査証免除協定についても議論が交わされた。

Khovaev 大使は，昨年 7 月の正副大統領及び連邦議員合同就任式典に参列したが，今回はポンペイ州入りの前に，2 日～6 日の期間ヤップ州を訪問，ポンペイ州訪問の後 9 日～12 日にはチューク州を訪問した。

難破船の 3 名のチューク州遭難者が救助される

7日、チューク州のPulap島からWeno島に移動中（通常は小型船で3時間の行程）の小型船舶が転覆し、乗員3名は同州内の無人のFanadik島に数マイルを夜間泳いで漂着、その後同島の砂浜に「助けて」と大きく英語で印をつけて救助を待っていたところ、日本の三沢基地から飛びだった海軍航空機が米国沿岸警備隊艦船と連絡しつつ捜索した結果、無事に3名は救助された。同3名のうち1名はRobson Romolow連邦議会議員であった。

スウェーデン外相がミクロネシア連邦を訪問

11日、Margot Wallstromスウェーデン外相がポンペイを訪問したが、過去に多国間会議で他国の外相がミクロネシア連邦を訪問したことはあるが、アジア、アフリカ、欧米の外相レベルの単独訪問は今回が最初となった。Wallstrom外相は次回の安保理理事会非常任理事国入りへの支援を求めると共に、共通の関心事である気候変動・環境及び人道、民主主義分野にかかる意見交換を行い「持続可能な漁業、サンゴの白色化や海洋環境問題について、スウェーデンはEUメンバー国として数々の支援をミクロネシア連邦に対して行ってきた。また、男女平等を政策的に擁護してきたスウェーデンは、外交面で各国に男女平等の取組を推し進めるよう各国に要請してきた」と説明した。

デブルム前マーシャル外相を在マーシャル・ミクロネシア連邦名誉領事に任命

14日、デブルム前マーシャル外相を在マーシャルにおけるミクロネシア連邦との連絡・調整役としての貢献を期待し、クリスチャン大統領は名誉領事に任命した。

第101回ANZAC記念日式典が実施される

第一次大戦中に豪州及びニュージーランドの約12,000名の兵士が戦ったGallipoli戦の戦没者の慰霊を目的とする第101回ANZAC記念日が、当地豪州大使館館員宿舎コンパウンド内で行われた。

式典では、Richard Watson豪州軍大佐／ミクロネシア3国、ソロモン諸島、バヌアツ付き広域駐在武官が進行係となり、同記念日の意義や戦争の悲惨さを説明し、戦没者の慰霊の黙祷を参列者に呼びかけた。

3 経 済

ミクロネシア連邦信託基金の2015財政年度監査終了

信託基金は、2023年以降のミクロネシア連邦政府の予算の独立性を確保することが設立の趣旨である。

3月22日の信託基金委員会において、同信託基金の2015年度監査報告が承認され、同日、独立監査機関である「Baker Tilly Virchow Krause, LLP」により

る財政年度監査結果も同委員会に提出された。

The fund's restricted fiduciary net position value (基金の制限された信託に基づく純持高) は、2014年度の380,901,011ドルから4.3%増加し、2015年度は397,313,588ドルとなったが、右増加は主にアメリカ政府による寄付(26,976,960ドル)、利息及び投資による配当収入(19,765,695ドル)によるもので、投資による収入は10,271,651ドルのマイナス。

同基金は3年連続の成長(12年度15.9%、13年度14.4%、14年度9.1%)を示した後、マイナス2.6%の年次利益率という重荷を負うこととなった。

手数料を差し引いた実績ベースでは2.8%の損失であったが、基準損失の3.4%をしのぐ結果となった。総合的に手数料を差し引いた実績ベースで、基金は当初と比して4.6%の利益を得ることとなった。

「Baker Tilly」により行われた年次監査は期限通りに、かつ、アメリカの会計検査官により発行された一般的に受け入れられている監査基準及び一般的に受け入れられている政府監査の基準に従って実施され、否定的な監査の答申はなかった。(5月2日付け報道)。

サメ保護に向けた地域的取組の実効性を高めるための国際会議がパリキールで開催される

6日～7日、パリキールで開催されたサメ保護法の効果的な実施に関するワークショップにはミクロネシア3国、ミクロネシア4州、グアム及び北マリアナ諸島連邦から関係者が参加し、2015年までに各国・地域におけるそれぞれの保護法令の成立により完成された「ミクロネシア・サメ保護海域区(Micronesia Regional Shark Sanctuary)」の実効性を高めるため、違法、未報告及び規制外の漁業に対し共同監視行動等の効果的な措置の有用性について議論が交わされた。

4 経済協力

JICA 研修員同窓会ポンペイ州支部によるセケレ地区での活動

3月26日、JICA 研修員同窓会ポンペイ州支部(JAA)は、JICA ミクロネシア支所の支援を受け、セケレ小学校の1～4年生が学ぶ校舎のペンキ塗りを実施した。

より良い教育環境の提供を目的として、JAA メンバー、JICA ミクロネシア支所の職員とボランティア、地域関係者の総勢約20名が参加。ジェネシス病院もJAAのパートナーとして参加し、テント、イス、テーブル、飲料水及び持ち帰り用の昼食を提供。活動完了後には、活動の成功を示すため、ペンキ塗りされた校舎に記念銘板が取り付けられた。

無償資金協力「被災地ノンプロジェクト」オシロスコープ引渡式の開催

25日、無償資金協力の「被災地ノンプロジェクト」によって寄与されたオシロスコープ（計4台）の引渡式がミクロネシア短期大学ポンペイ校において執り行われた。同オシロスコープは「被災地ノンプロジェクト（総額2億円）」の一部としてポンペイ州ミクロネシア短期大学に寄与されたもの。オシロスコープとは、時間の経過と共に電気信号（電圧）が変化していく様子をリアルタイムでブラウン管に描かせて観測できるようにした波形測定器で、同短期大学では Technology & Trades 学科等において、より高度な測定実習とトレーニングのために使用される予定。

式典で挨拶を述べたミクロネシア短期大学シミオン副学長は、オシロスコープが先週到着をしたことに喜び、今後、生徒達が同機材を使用してより効率的な実習が出来ることを願うと共に、日本政府への感謝を表した。坂井大使は、ミクロネシアの発展には職業教育が大変重要であり、供与されたオシロスコープが今後同短期大学の生徒達によって効果的に使用され、ミクロネシアの将来を担う人材の育成に役立つことを望むと述べるとともに、オシロスコープが無事供与されたことに関し、関係者全員に感謝の念を伝えたいと述べた。

式典のあと、同短期大学 Technology & Trades 学科の生徒達が、教官の指導のもと、到着したばかりのオシロスコープを使用して波形測定を実演披露し、以前まで使用していたオシロスコープでは測定出来なかったデータ等を坂井大使に説明した。

5 その他

New Tokyo Medical College (NTMC) が医学生への白衣授与式を実施

2011年5月、北太平洋地域内の最初の正式な6年制医学教育機関としてNTMCはミクロネシア連邦政府に認可・設立（校舎はポンペイ州コロニア町内）され、同校は多くの教育認定機関（FAIMER, ECFMG 及び IMED）に正式登録済みであるほか、世界保健機構（WHO）の世界医療教育機関年鑑にも記載されている。

28日、18名の医学生が医学者としての使命の宣誓式(White Coat Ceremony)に臨んだ。

同校は4年制及び6年制の2コースを併設し、アジア太平洋地域で活躍する医療専門家を育成することを設立目的とし、講師陣は米国、フィリピン及び韓国出身の医療実務者及び教育者達である。第1期生は60名で彼らは2018年に卒業を迎え、アジア太平洋の無医地域へ配置される予定。

同校は医療サービス向上及び医療スタッフ訓練強化の分野でポンペイ州立病院等の地域の医療機関との関係を強化する方針をとっている。

Dr. Hong 同校長は米国陸軍医療局 (Army Medical Department) 出身で米国内の軍医療組織で経験を積んできた人物。

83 歳の日本の高齢手品師がポンペイ来島

自身の手品の披露を 80 カ国で行うとの目標をもって始めた手品の世界の旅を敢行している日本人マジシャンの Max Watanabe 氏がポンペイ州にやってきた。

滞在中、同氏はポンペイ公立図書館、ポンペイ州立病院、コロニア小学校等で児童や一般住民親子の前でご自慢の手品を披露し、大きな拍手で迎えられた。(27 日付け報道)。

(了)